

## 学位審査結果報告書

学位申請者氏名 金田 和彦

学位論文題目 Ten-year survival of immediate-loading implants in fully edentulous mandibles in the Japanese population: a multilevel analysis 日本における下顎無歯顎即時荷重インプラントの10年生存率 -マルチレベルによる解析-

審査委員 (主査)

清水 博史



(副査)

角舘 直樹



(副査)

楨原 絵理



### 学位審査結果の要旨

無歯顎に対する即時荷重インプラント治療が広く実施されるようになり、その経過に関する臨床研究もみられる。しかしながら、その多くは短期の経過のみで長期にわたる報告は少なく、ほとんどは欧米におけるものである。また、その長期経過時のインプラント生存に関わるリスク因子については不明である。そこで本研究では、即時荷重インプラント治療を行った下顎無歯顎症例について10年間後ろ向きに検討することにより、日本における長期経過時の臨床エビデンスを示すとともに、治療に対するリスク因子を明らかにすることを目的とした。

対象は2005年10月から2015年10月に九州歯科大学附属病院および国内の2つの歯科医療機関で、下顎無歯顎に即時荷重インプラント治療を受けた患者52名、インプラント220本とした。累積生存率はKaplan-Meier法にて解析し、2群間の比較はlog-rank testsにて行った。リスク因子の解析にはマルチレベル解析であるMultilevel mixed-effects parametric survival analysisを用いた。

全インプラントの10年間の累積生存率は93.9%であった。男女間で比較したところ、累積生存率は男性において有意に低値を示した( $p=0.049$ )。インプラント埋入部位(前歯部もしくは臼歯部)、インプラント埋入時期(抜歯後1ヶ月以内もしくは1ヶ月以上)で比較したところ、いずれも累積生存率に有意な差は認めなかった。Multilevel mixed-effects parametric survival analysisによるリスク因子の解析を行ったところ、年齢、性別、インプラント埋入時期、インプラント骨内長、インプラント直径、インプラント埋入部位のいずれも有意な因子ではなかった。以上より、本邦における下顎無歯顎即時荷重インプラントの累積生存率は十分に高い値であること、および女性より男性の累積生存率が低いことが明らかとなった。

本研究は、本邦における無歯顎に対する即時荷重インプラント治療の長期経過時の生存に関わる臨床エビデンスを初めて示した点で意義がある。当初の目的であった治療に対するリスク因子を明らかにすることはできなかったが、性によって累積生存率に差があることも示しており、今後即時荷重インプラント治療に際し、示唆を与えるものと思われる。本研究について、申請者の金田氏に対し、主査と2名の副査により、即時荷重インプラントとAll-on-4に関する先行研究に対する知識、インプラントのコンピューターシミュレーションシステムと臨床術式に関する知識、統計解析の手法と解釈、結果に対する考察および今後の展開について試問を行った。その結果、概ね適切な回答を得たので、審査委員会では本論文を学位論文として価値あるものと判断した。